

発行：JVC シニアクラブ  
会長：普沼 喜久次

■ ～戦後70年～ 副会長 高石 勝巳

先般天皇・皇后両陛下がパラオ共和国のペリリュー島に赴かれこの島の戦没者1万余の冥福を祈られました。私の住む水戸の護国神社にはペリリュー島戦没者の慰霊碑が数多く建立されています。それは当時日本最強と謳われた水戸歩兵第2連隊が主力の守備隊が、この島での苛烈な戦いでほぼ全滅(生存者34名)したからです。1944年11月、71年前のことです。



茨城県護国神社にある慰霊碑

このパラオでの慰霊のお言葉を初め、最近の天皇のメッセージからは「歴史を学ぶ大切さと平和の尊さ」が強く発せられているように思われ、心に沁みるものがあります。

これは戦後生まれが既に80%となりあの戦争が風化しないようにしなければならないという思いが込められているからであります。

私は戦中(昭和17年)生まれの73歳で当然ながら戦争時の記憶は全くありません。ただ昭和20年5月29日の横浜大空襲で焼け出され母と妹と3人で逃げ惑った記憶は微かにあります。むしろ戦争に関する記憶といえば戦後の貧しさの中での食糧難が鮮烈に残っており、二度と経験したくないし子や孫に絶対経験させたくないと思っております。

～これからの10年～ 戦後の日本人は豊かな生活・豊かな老後を目指して現役時代に大いに頑張ってきました。しかし、現在はおもかく今後は多難な老後を迎えそうです。

10年後には団塊の世代が後期高齢者になり社会保障費が一気に増大する「2025年問題」を抱えています。従って今後は消費税を初め多くの税金や保険料が増額されると同時に高齢者への給付が絞りこまれ、年金・医療・介護それぞれの分野で高齢者受難の時代となることは間違いありません。

まず年金は既に実質的な切り下げが始まっています。04年に導入された「マクロ経済スライド」により年金給付は物価上昇に追いつけない制度となり昨年度より実施されています。

問題は介護保険です。常に予想を上回る受給者の増大で保険はパンク状態です。

今年の4月から99%の自治体で保険料値上げ(平均11%)となりました。また、給付の絞り込みも行われ、要支援1, 2は対象外となり更に範囲を拡大しようとしています。そして特養は常に満杯で、特に都会地で非常に深刻な問題です。

重度の要介護の主因はボケによるものであり、ボケは引き籠りが一因といわれています。私たちのシニアクラブは一人でも多くの会員を集め一人でも多く活動へ参加してもらうことでボケを防止し会員個々が豊かな老後を送れる一助となればと念じて活動しています。



**ボケ防止に効果的！「高周波音に身をおく」** 高周波音が豊富に存在しているのが自然環境です。耳には聞こえませんが、山や小川、海などあらゆる自然環境で高周波音は豊富に感じられるそうです。息抜きと脳を活性化させる目的で散歩するのも良いでしょう。【<http://goodluckjapan.com/brain/>】

## ■ 統一地方選挙結果 ～私達仲間の議員達～

4月26日(日)全国一斉に行われた統一地方選挙で、私たちシニアクラブの会員である、西川せいしさん(千葉県流山市議)、長浜音一さん(茨城県古河市議)、JVCケンウッド労組所属の伊関こうじさん(横須賀市議)がそれぞれ見事、再選されました。ご支援・ご声援いただきました皆様、ありがとうございました。3名の方には、引き続きそれぞれの地域における活躍に期待いたしましょう。



西川さん

長浜さん

伊関さん

## ■ 東京支部・千葉支部共催「おやじバンドを楽しむ会」報告

4月26日(日)、銀座のライオンビル6階クラシックホールで開催された「おやじバンド倶楽部」の演奏会に17名が参加。なつかしのベンチャーリズムとお酒に酔いしれました。



## ■ 神奈川支部「海洋研究開発機構(JAMSTEC)」見学会報告

4月30日(木)、JAMSTEC 横須賀本部の見学を行いました。当日は、曇りながら海風が心地よい陽気で、岸壁に停泊する支援母船を真近に見たり、整備中の深海巡航探査船「うらしま」を見学。海洋科学技術館では JAMSTEC が保有する船舶模型や貴重な深海生物、鉱物類の標本等の展示物を見学しました。さらに実物大模型の「しんかい6500」の操作室に入りその狭さを体験したりしました。(参加者:29名)



なお、この企画は募集開始後2日間で定員に達してしまい、更なる参加希望があったため、7月に第二次見学会も開催予定ですが、こちらもすでに定員(30名)に達しています。

## ■ 事務局から 6月4日(木)「ビクターの栄光を偲びカラオケを楽しむ会」開催案内

去る1月20日(火)に市ヶ谷アルカディアで開催された「ビクター高柳会」で、元会社取締役、町田豊隆様の「高柳先生から直接伺った開発当時の苦労話」と題した講演がありました。その中で、高柳先生が戦前にブラウン管方式のテレビ開発に取り組まれた時の様子が紹介されましたが、その苦労話そのままが講演の題材となっています。



これを講演として取り上げたのが、講演師 田辺一邑 師匠(浜松市出身、真打)です。すでにいろいろな演芸会場においてこの話が紹介されていますが、今回、直接お願いして私たちの前でそれを披露してもらうこととなりました。

続いて、「生スリ」実験報告です。40年以上も前に、多くの聴衆の前でレコードとオーケストラの演奏すり替え実験が行われ、プロの音楽評論家を含め、ほとんどの人がどこですり替えられたのか判らなかつたという史実があります。その時の様子や、ビクターがその後の業界に与えた影響などを直接担当した当時の技術者から語ってもらいます。

そして、みんなで歌いましょう。カラオケです。頭と体に刺激と潤いを与えましょう。

案内を同封しました。奮ってご参加ください。

事務局長 田代 周

人口減少社会の中で、健康寿命の延伸は国家的要請といえます。うたと音楽には不思議なチカラがあります。健康の維持や、こころとからだの機能改善にも大きな効果が見込まれています。

そして、介護予防と生活機能改善の役に立つと考えられます。【日本音楽健康協会 HP から抜粋】